



長期安定政権の罠

【疑惑の土地取引】

長期安定政権を築くか、と思われた安倍政権が意外なスキャンダルを抱えている。

教育勅語の朗唱で知られる「塚本幼稚園」。その経営母体である学校法人「森友学園」が、大阪府豊中市野田町の約8,770平方メートル(2,658坪)の国有地を1億3,400万円で購入した。

近隣の国有地9,492平方メートル(2,876坪)は、豊中市が2010年3月に約14億2,300万円で購入している。このことを考えると、森友学園は圧倒的な安値で購入したといえる。

路線価に基づく国有財産台帳の価格は、2012年で8億7,472万円、翌年で7億6,302万円であった。

なぜ、こんなに安く国が売却することができたのか。

からくりは、こうであった。

近畿財務局は公平な土地価格を鑑定評価した。

その不動産鑑定士は、更地価格を9億5,600万円と算出した。

財務局は地下の廃材、生活ごみの撤去・処理費8億1,900万円と、撤去で事業が長期化する損失を差し引いた。

そして1億3,400万円が出てきたのである。

それにしても8億1,900万円の割引は妥当だったのか。

【久しぶりに元気になった朝日新聞】

最近叩かれまくられたということもあろうが、久しぶりに朝日新聞等の「反権力」「反安倍政権派」が元気だ。

同紙では、野党が国有地売買を巡って国による便宜供与があったのではないかと疑っている点を4点、表にしている。

1) ゴミ撤去費用8億1,900万円の減額査定を、第三者ではなく大阪航空局が実施した点。前例のない措置。

2) 売却を前提とした「買い受け特約つき貸付契約」を学園側と結んだこと。このような異例な契約は、学校法人のケースでは過去に1例しかない。

3) しかもその契約による売買代金の支払いは分割を可にしたことで、明らかに資金的便宜を与えたといえ、これも前例がない。

4) 売買価格を当初、非公表としていたこと。これも原則すべて開示から考えれば明白な逸脱だ。

この時点で、この話は相当な臭い、とわかってくる。

しかも学園と安倍氏との関係については、首相の妻、昭恵氏の小学校名誉校長就任するなど怪しい背後がありそうだ。

自民党は、審議のテレビ中継も、民進党が求めた3人の参考人招致(森友学園の籠池泰典理事長、売却交渉をしていた時期に財務省理財局長だった迫田英典国税庁長官、同じく近畿財務局長だった武内良樹財務省国際局長)も拒み続けている。

さらに森友学園が運営する幼稚園での教育の中身についても疑問を呈している。同紙は2015年秋の運動会の映像を入手し、その異様な光景について具体的に書いた。代表の園児4人による「選手宣誓」では、「日本を悪者として扱っている中国、韓国が心改め、歴史教科書でうそを教えないよう、お願いいたします。安倍首相ががんばれ、安倍首相ががんばれ。安保法制国会通過良かったです」と園児が言われているのだ。

この点は国会でも質問され、安倍氏も「『安倍総理がんばれ』とか、園児に言ってもらいたいということはさらさらしないし、私は適切でないと思う」と答弁している。

【教育基本法違反?】

こうした教育が行われているとなると、教育基本法にある「法律に定める学校は、特定の政党を支持し、又はこれに反対するための政治教育その他政治的活動をしてはならない」に少なくとも反している。この点を追及されると「行われている教育の詳細は承知していない」とか、「所管の大阪府が監督するもの」といった逃げ口上が目立つ。教育勅語には「一旦緩急アレハ義勇公ニ奉シ以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ」という内容を含み、まさにその内容が軍国主義教育となり、内外の膨大な犠牲にもつながったとされる。因みに、戦後、教育勅語については、衆議院で「排除に関する決議」、参議院では「失効に関する決議」がなされている。日本は教育勅語を捨てたのであった。

【鋭い切れ味 — 毎日新聞】

毎日新聞は、野党が示した4点がなぜ行われたのか、独自記事にその背景をうたっている。

2012年に大阪府が学園側の要望を受ける形で私立小学校設置認可の基準を緩和し、その後申請したのは森友学園だけだった。

さらに、大阪府私立学校審議会の議事録から、学園の財務状況について「実質債務超過」との指摘がなされていることを発見。さらに、今月22日の臨時審議会では、入学希望者が定員の半数程度に止まっていると報告され、森友学園の財務状況を懸念する声が出ていたと指摘する。となると、この異様な便宜扱いも森村学園の苦境から出たものである可能性が高い。

現在、小学校用地にはゴミを含んだ土砂が積み上げられていて、豊中市は廃棄物処理法に基づいて造成担当の業者への聴取と現地調査を行ったが、業者は「1年前から仮置きしている」と無理な説明に終始している。

もちろん、土中に含まれる廃棄物の問題は、小さくない。

明らかに土木の常識を無視し、「仮置き」と強弁しながら、実際は現場に「埋め戻した」、つまり不法投棄された可能性が高い。

また、土地価格の引き下げ分はまさしくこの廃棄物処理の費用なのだから、廃棄物を放置している以上、国有地売却の違法な引き下げがあったのではないかと疑惑をいっそう強めることにもなる。簡単に言えば、本来除去しなくてはならない土中廃棄物はなかった。それは業者に運ばれ、土中に埋め込まれることによって発生した。それが、相場の10分の1とされる「廃棄物処理費用の中身」であった、というわけだ。

【強烈な政権スキャンダルとなりうる】

政権は、韓国の朴政権、古くはニクソン政権などもそうであるが、自らの権力におぼれた私的濫用によって崩壊する。

安倍政権の行った多くの施策は、経済に関して悪いものではなかったし、近年の日米関係には安どする市場参加者も多かったであろう。しかし、現時点で考える限り、この学園は相当悪手を使っており、また国が何らかの形で関与した可能性が高い。

扱いを間違えば、政権が崩壊するリスクがある。政権は誠実な対応が必要だろう。

テクニカル レンジブレイクに注意

NYダウ平均は3月1日21,169まで上伸して、史上最高値を更新中。先週「上値抵抗が存在しない状況。レジスタンスは心理的な価格レベル、切りの良い数字となるが、次は21,000、そして22,000」と述べた。2日NYダウは前日比112ドル安となった。2月28日の安値を割り込むと本格的な調整に入っていることを示唆する。

一方、日経平均株価は2日ギャップアップし、昨年12月以降のレンジ内、最高値、且つ年初来高値19,668を付けた。しかし、3日はこのギャップ（下限19,164）を埋めにかかっており、依然としてレンジ圏の推移が続いている。

先週次の通り述べた。「日経平均の目先の動きは昨年12月に高値をつけて以降9週間の保合い。レンジは19,600～18,650。保合い上放れは4月に向けた上昇を示唆し2万達成。ただ、レンジ下放れは2015年8月のチャイナショックの如き急落を見る。2月のギャップ（18,991～19,193）下抜けはこれを警戒」。3月相場もこのレンジ突破に挑戦するところとなるが、上抜けは2万突破が想定される。ただ問題はメリマン・

アストロロジーによる今年最大の警戒すべき時間帯に入っていることだ。3月4日からの金星逆行開始が相場の転換点と合致するかどうかが懸念される。前後1週間のオーブがあるが、NYダウ平均は明らかにこの時間帯に向けて急騰した。そこからの反転は相応の下げを示唆する。NYダウ平均の急落は日経平均にも影響を与える。レンジ下放れは4月に向けた上昇シナリオを放棄せざるをえない。それまではレンジ上放れを目論む。



今週の必読押し 慎重派は見極める時だが

米国では利上げ観測、欧州フランスでは大統領選での極右ルペン氏の支持率低下等々、先週は金融市場全般でその日その日の外部要因に一喜一憂、上下に振り回された印象があった。

テクニカル的に見て、ユーロドルの日足は目下非常に興味深い展開になっている。これまでこの相場は、昨年5月の高値を起因とした下降チャンネルラインの中で推移しており、2月以降はライン下限に向かっていった。ただその過程で、相場は昨年12月8日と2月2日の高値を結んだ下降トレンドラインと、1月の直近最安値と2月15日の安値とを結んだ上昇トレンドライン①、更に1月安値と2月22日の安値とを結んだ上昇トレンドライン②とで2つの三角保合いが形成されていた。

その上、前週の相場ではライン②で切り返し、15日スローストキャスティクスとの間で「強気オシレーターダイバージェンス」が発生した可能性を示唆。「今週以降、この指標が40%を超えて上昇を指向するようなら、よりその可能性が高い。更

に現在1.060～1.066に存在している23日、及び69日平均を突破すると相場基調は強気に。直近で最も強力な上値抵抗は、1.08を僅かに超えた付近にある16年3月の安値水準。目先はこの値位置を目指そう。逆に今週、上値重く引け値で22日安値を割り込む可能性も否定できない。その際は再度強気オシレーターダイバージェンスが出現するか否かに要注目。出来ていれば真の買い場になろう」と指摘していた。

これを受けて先週の相場は2日に1.0494まで下落し、2月22日の安値（1.0493）と面合わせ後に急反発。引け値で69日平均とライン①を突破した。通常、これは相場のダマシと見るべきであり23日平均をも突破すると1.08を目指す公算が高い。

しかし15日スローストキャスティクスはまだ40%を超えていない。逆に今週、相場が下落すると1.04、もしくは1月安値を試しかかるかも知れない。今週はこの動きを見極める時間帯ではないか。ただ、以前から記述の通り1月安値を相場が割り込まぬ限り、相場基調は強いと筆者は見る。慎重派は今週様子を見るとして、短期積極派は今週上寄りしたら純張りの買い。下抜けしたら1月安値割れを損切り水準に逆張りの買いだろう。

今週の主な予定・経済統計

3月6日（月）

- ・1月の米製造業新規受注
- ・ミネアポリス連銀総裁、講演

3月7日（火）

- ・1月の米貿易収支、耐久財受注
- ・OECD 経済見通し公表
- ・米3年債入札（240億ドル）

3月8日（水）

- ・米10年債入札（200億ドル） ・昨年第4四半期の日本の実質GDP
- ・2月の米ADP雇用統計（前月比18.5万人増の予想、前月は24.6万人増）

3月9日（木）

- ・米30年債入札（120億ドル：入札合計は560億ドル規模）
- ・EU首脳会議（10日まで）
- ・ECB政策金利発表・ドラギECB総裁、記者会見
- ・米週間新規失業保険申請件数（前週は22.3万件）

3月10日（金）

- ・2月の米非農業部門雇用者数（NFP）（前月比19万人増の予想、前月は22.7万人増加）
- ・2月の米失業率（4.7%の予想、前月は4.8%）

3月12日（日）…満月

- ・米国、カナダが夏時間に移行



今週の相場風林語録

大欲は無欲に似たり（2）

相場も利食い（幅）は器量。その人の器しか取れない。そこに「分を知れ」と言われる。分とは人間的な身分である。階級ではない。

今週の九星★波動

南雲 紫蘭

八白から七赤へ

わかっていたはずでも実際に見えてくると何とも恐ろしい。これが、最近の市場参加者の偽らざる本音ではないでしょうか。

トランプ大統領の施政方針演説、更に何とも不気味な欧州政治状況。冷静に考えて、トランプ大統領の施政方針が選挙公約通りとするならば、巨額の財政出動、米国への資金還流に対する巨大な減税、法人税の全般的な引き下げなど、ドル高としか考えられず、また欧州の情勢がユーロ買いを誘発するとはとても思えません。

長期的には、ドル高の構造が決定的になる中で、市場はなぜかクロス売りで反応しています。

確かに米ドルの方向性に自信がなければ、単純に円買いユーロ売りは説得力がありますが、しょせんは米ドルが大きく動く前の「嵐の前の静けさ」に過ぎないでしょう。

相場指南道場

トレーダーあすなろ物語 (385)

中原 駿

インターネット革命で生産性が上がる。

今となっては常識となっているこの感覚は、1990年代半ばでは半ば神話であった。

インターネットとは、マニアックなコンピューター業界と大学などのアカデミーが使っているだけの「おもちゃ」であり、情報交換するくらいのものであった。

長いメールとその返答などは、むしろ、欧米で笑いのものにされていた。

暇人の、白亜の巨塔における暇つぶしに過ぎない。

そんなシニカルな意見もあった。もちろん、インターネットが巨大な情報革命を引き起こし、世界はとても小さくなる一と信じている人々もいた。

第六感の 目 カギ握る上値抵抗

テクニカルアナリスト 葛城 北斗

上抜けは加速パターン

先週のドル円相場は111.69まで下落して、2月6～7日の安値111.50台に対するダブルボトムとなった。その後、相場は週末にかけて反騰、114円台まで戻した。

依然としてレンジ内の相場だが、その件については先週お伝えした通り。2月はこれで4年連続レンジ相場となった。

先週のテーマは3ポイント上値抵抗であったが、3月3日東京市場では未だ上抜けていない。これについての過去2週間のコメント。「3ポイント上値抵抗を上抜けると1月3日の年初来高値に挑戦する動きを見ると予想する。従って、順張りを好む投資家はこの上値抵抗突破からロングを仕掛けていくのも良いだろう。逆張りの投資家は112円台を買い拾いたい。ストップは111.50割れの引け値に引き上げる。」

3月2日の高値114.58はほぼこの3ポイント上値抵抗に阻まれた形となった。このまま、113.50以下に落とされると、今回で4ポイント上値抵抗となる。それまでに突破すれば強力なトレンド発生シグナルとなる。ただ、先週も述べた如く、過去3年の2～4月のレンジ相場は癖が悪い。上抜け、下抜けがダマシになるケースが頻繁に見られた。従って上値抵抗突破後、引け値で下回ることがあれば、その突破はダマシになる。

とはいえ、ダマシを気にしては相場は張れない。その時は黙々と損切りする。引け値で抵抗線突破は買いだが、その後、引け値で再び下回れば即刻、損切り。

3月第1週のボラティリティの上昇には十分に注意したいものです。

九星高下伝は逆行が続いています。月盤《八白土星》は「後場急変」という星。この月まで波動逆転が正しければ、株高円高。

そして新月盤は《七赤金星》。逆転が続いているならば「暴落」。さて、どうなることでしょうか。



だが、それは一部の意見であったし、シニカルで懐疑的な日本の土壌では、米国で目の前で起こっている革命的な事態が信じられなかったのである。

だが、上野は違った。

シンガポールという、さまざまな人種とトレーダー、マーケットが交錯する場所だからこそ感じる恐るべき生産性の向上を目の当たりにしていたのだ。

米銀のシステムはどんどん変わっていた。リアルタイムにリスクを計量するシステムも実現化されつつあった。既にロイターディールはあったし、リアルタイムでシステムを稼働するエレクトリック・バンキングも構想が立ち上がっていた。

こうしたシステム上の変革はすべての業種にわたって起こっており、こうした変化が巨大な生産性を引き上げていた。

グリーンスパンのFRBはそこを見ているに違いなかった。であれば、均衡金利はもっと、もっと高くてもおかしくはない。

ダマシでなければ、相応の上昇が見込まれ、115円台では一部利食い、残りは116円台から120円台を狙う。

先週、この突破が実現すれば約8%の上昇率を試算し、それは約120円と述べた。ただダマシも多いので、その前に警戒すべき点の一つ述べている。即ち「2014年版のレンジでは4月にレンジの最高値を付けた。これは現在の相場に当てはめると116円台。当時はそれがまた、ダマシの上抜けで、その後2.7%の急落に見舞われた。今回もし116円台を付けた後2.7%下落すれば3円幅の急落。癖の悪いレンジ相場となりそうだ。」

結論は3ポイント上値抵抗を上抜ければ買い(順張り)、その後引け値で下抜けばロスカットする。逆張りでは112円台を買い拾う。ストップは111.50以下の引け値。



サイクルだけ話します。

— メリマン・サイクル理論 備忘録 —

【第30回】ドル/円相場のサイクルについて (1)

昨年10月、当欄ではドル指数のサイクル分析を行いました。この指数は「絶対評価」としての米ドルの強弱のサイクルを探るものでしたが、これが「相対評価」になるとどう変わるのか。

ドル/円相場の月足を見ると、米ドルは円に対して「16.5年の底打ちサイクル」と「100カ月の天井サイクル」という非常に綺麗な2つの長期サイクルを確認する事が出来ます。下のチャートはごく一部ですが、その一端が伺えると思います。



メリマン通信 — 金融アストロロジーへの誘い —

金星逆行中間点までのチェックポイント

2月22～27日の木星・天王星・冥王星T字スクエアに対する火星トランスレーションが「予告編」とした場合、上記の一角をなす3月3日の木星・天王星オポジション（180度）は本編。更にその前日2日は魚座での太陽・海王星コンジャンクション（0度）。先週2～3日にかけて、種々の相場は長短を問わず何らかの節目をつけた印象がある。

後者の天体位相に関して“…この3つの星と先述の木星はどれも原油に関連している。この前後に原油相場に変転があれば、それが何かの引き金になる可能性もあるだろう”としたが、NY原油相場は3月に入って急落し、2日に52.54ドルまで下落。しかし翌4日はこの値を下回る事なく反発した。ユーロドルの先週の安値も2日。この安値は2月22日安値との面合わせ。NY金は3日に週の安値をつけている。

高く仕入れて安値で投げる投資家から
脱却してアクティブブシニアになろう！

四半世紀以上、投資の最前線で活躍してきた
「プロ中のプロ」が語る現在の株式市場とは

- ◎マイナス金利時代に株を持ち続けて成功する秘訣を解き明かす
- ◎10倍になる株など豊富な実例で銘柄発掘の心得を公開！
- ◎株式投資の実践編として〈有望銘柄掲載〉！



株で資産を蓄える

～バフェットに学ぶ失敗しない長期株式投資の法則～

S・アダチ&カンパニー
代表取締役社長

足立 真一 著

発行：開拓社 定価：1,296円（税込み）

筆者が確認している数値でこの相場は1978年10月30日の176.70円から1995年4月19日の79.70円までの199カ月（16年7カ月）、そこから2011年10月31日の75.57円までの198カ月（16年6カ月）と2回ボトムが確認されています。

一方、天井サイクルは1982年11月3日277.46円から90カ月、101カ月、107カ月の間隔で天井をつけました。そして、ここで挙げた最後の天井は2007年6月22日の124.15円。そこから丁度8年、96カ月後の2015年6月5日に125.84円を記録しています。従って、この15年6月高値が直近の100カ月サイクルの天井であったと筆者は見えています。

一方ドル円相場の先週の高値は3日。日経平均株価の高値は2日。NYダウの高値は1日。ジオコスミック的には4日から金星逆行が始まり、同じ日に水星も海王星とコンジャンクションを形成するので、2月22日の値位置と面合わせした相場は今週、2月22日以降の相場状況、つまり相場反転が想定される。

とはいっても星回りで相場の方向性を推測する事は出来ない。ここから先はサイクルやテクニカルの出番であり、反転ではなく先週末の流れが“加速”する可能性にも注意が必要があろう。もっとも、目先の相場が反転しても加速しても、星回りから見た目先の反転ポイントは幾つか挙げられる。

まずは12日。ここでは水星・土星スクエア（90度）と満月が出現する。次に18日。ここは水星・金星コンジャンクション。また20日も注意したい。この日は太陽が牡羊座にサインチェンジする日（春分）である。そして水星は24日に木星とオポジション。つまり、ここは水星トランスレーションの時間帯。更に、その翌日は金星逆行中間点（太陽・金星コンジャンクション）だ。

WEBサイトより一足早く、1週間分まとめ読み！！

今週のアストロロジー info

- | | |
|----------|---------------------|
| 3月6日（月） | 加速するか、動かないかのどちらか |
| 3月7日（火） | 気迷い症状 |
| 3月8日（水） | レンジ相場の様相 |
| 3月9日（木） | 市場人気は楽観的 |
| 3月10日（金） | 来週月、火の重要変化日オーブ内 |
| 3月11日（土） | 相場の好調時とは不調時の休止に過ぎない |
| 3月12日（日） | 絶好調は次の絶不調の前触れ |

FORECASTS 2017
レイモンド・メリマン 著
2017年の相場を読み解く究極の書

2017年は相場の節目か？

星を読む。サイクルを読む。市場を読む。
Feel the star. Feel the cycle. Feel the market.

フォーキャスト2017

アストロロジーとサイクルで
2017年の相場を読み解く究極の書

レイモンド・メリマン 著 秋山日輝香・投資日報編集部 訳
投資日報出版発行 8100円（税込・送料別）

簡単・便利な『投資日報オンラインショッピング』もご利用ください。

お問い合わせ・お申込みは：投資日報出版（株） <http://www.toushinippou.co.jp/>

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 3-12-11 GRANDE 人形町 6F 電話：03-3669-0278 FAX：03-3668-4444